

令和7年度 江戸川区立小松川第二中学校 特別活動全体計画

校長名 星谷 雅俊

学校の教育目標	・思いやりのある、心豊かな生徒 ・進んで学び、考えて行動する生徒 ・規律を守り、責任を果たす生徒 ・心身を鍛え、たくましい生徒
特別活動の目標	集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や事故の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成することを目指す。
目指す生徒像	○思いやりや奉仕の精神のある生徒 ○主体的に行動し、向上心のある生徒 ○ねばり強く、心身を鍛える生徒
特別活動の重点目標	(1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 (3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め自己実現を図ろうとする態度を養う。

	学級活動	学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組む。				
目標						
指導の方針		(1)学級・全員に共通する問題を取り上げ、自主的・実践的な活動を通して、学級や学校生活の向上に努めようとする態度を育てる。 (2)生徒が直面している問題とのかかわりの中で人間としての生き方を探求させる。また、人間の諸活動の基礎となる健康安全や食を中心として諸課題に対応し健全な生活態度や習慣の形成を図っていく資質や能力を育成する。 (3)生徒一人ひとりが、学ぶこと、働くこと、そして、生きることについて自己の問題として深く考えさせる。また、様々な課題に適切に対応し、社会人・職業人として自立していけるようにする。				
主な指導内容		(1)学級や学校における生活づくりへの参画 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上 (2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ 男女相互の理解と協力 ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現 ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ 主体的な進路の選択と将来設計				
他の教育活動との関連	各教科・読書科	学級活動においては話し合い活動を含む言語活動を通して表現や発表などが重要であるから、国語科や社会科をはじめとする各教科の学習を通して、話し合い活動や言語等による表現、企画立案、調査、発表など学級活動の基礎となる能力を培う。学級活動における自発的な実践活動と各教科で培われる能力が発展的に一層高められたり、深められたりするように指導する。	生徒会活動において話し合い活動を含む言語活動を通して表現や発表、活動の企画・立案、調査等の活動の基礎となる能力を、国語科や社会科をはじめとする各教科の学習を通して培う。また、生徒会活動における自発的な実践活動から、各教科で培われる能力が発展的に一層高められたり、深められたりするように指導する。	運動会・球技大会については、保健体育科の学習成果の発表としての視点を明確にする。また、文化祭については、音楽科、技術家庭科、美術科をはじめとして各教科の学習との関連を図る。弁論大会については、国語科との関連を重視する。		
	特別の教科 道徳	自己の役割や責任を果たして生活しようとする態度、よりよい人間関係を築こうとする態度、集団や社会の一員としてみんなのために貢献しようとする態度、自分たちで約束をつくって守ろうとする態度、目標をもって諸問題を解決しようとする態度、自己のよさや可能性に自信を持ち集団活動を行おうとする態度や規範意識、礼節などの道徳性を、集団生活を通して身に付ける。	生徒がよりよい生活を実くために、諸問題を見いだし、これを自主的に取り上げ、協力して解決していく自発的、自治的な生徒会活動を通して、望ましい人間関係の形成やよりよい生活づくりに参画する態度などにかかわる道徳性を身に付ける。	どの行事についても道徳性を養うことを重視するが、特に次の行事については重点的に扱う。 ・セーフティ教室：生命の尊さを理解し、かけがえない自己の生命を尊重する。 ・運動会・文化祭：学級、学校の一員としての自覚をもち、互いの良さを認め合いながら協力し、敬愛の念を深める。 ・儀式的行事：日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。		
	総合的な学習の時間	学級活動で育成する集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度と、総合的な学習の時間で育成するよりよく問題を解決する資質や能力を相互に役立たせるようにする。	生徒会による諸活動を実践することを通して、自分とのかかわりを視点とした問題発見能力、課題解決能力などを育成するとともに、これらを総合的な学習の時間の諸活動に役立てるようにする。	総合的な学習の時間の趣旨を踏まえ、環境や自然を課題とした問題の解決や探究活動として行われる自然体験活動を旅行・集団宿泊的行事の実施に替えたり、社会とのかかわりを考える学習活動として行われる職場体験活動とボランティア活動を勤労生産・奉仕的行事の実施に替えることで相互に生かすことができる。学校行事の趣旨である学校集団や学校生活への所属感を深め、望ましい人間関係の形成や公共の精神などを養う活動であることを配慮しながら指導する。		
家庭や地域との連携		生徒は、学校生活を送るだけでなく、家庭や地域の一員として生活している。従って学級活動の指導においても家庭や地域等との連携、協力が重要な意味をもっている。家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫し、学業生活の充実や進路選択の指導においても、地域人材の活用を図り、関係諸機関等の専門家などから話を聞くなどの活動を工夫していく。	生徒会活動は、校内の活動だけでなく、他校との相互交流を図ったり、ボランティア活動などの地域の行事への参加など、校外での活動へ広げていくことも図る。そのために家庭や地域との連携を深め、その教育力の活用を図ったり、地域の自然や文化・伝統を生かしたり、社会教育施設等を活用した教育活動を工夫していく。	家庭や地域の人々との連携を深め、その教育力の活用を図ったり、地域の自然や文化、伝統を生かしたり、社会教育施設等を活用したりする活動が展開できるよう工夫する。特に、チャレンジ・ザ・ドリームでは広く地域の方々との協力が得られるように計画的に取り組む。また、運動会・文化祭では教育活動の成果を示せるように工夫していく。		
備考						